

『ノア 約束の舟』 原題:NOAH'S ARK 2013



映画批評

『ノア 約束の舟』

～神の摂理か、人間の正義か

塚田三千代

2014. 6. 15 記

旧約聖書「創世記」に神の啓示を受けたノアが箱舟を造り、家族やつがいの動物を乗せて 40 昼夜の大洪水を生き延びた、と記されている。今に伝わる「ノアの箱舟」伝説である。

映画は、ノアという男が墮落した悪のはびこる世界が大洪水によって洗い流される光景を夢に見て、罪なき者を救えという神の啓示を自分のミッションにし、箱舟の建造に着手するシーンから始まる。ノアの建造する箱舟は、高さ 13m、幅 22m、全長 133mの3階建の巨大な箱型の舟で、これに地上のすべてのつがいの動物たちを乗せるのである。

地球の人間創世期における神の啓示——大洪水が起きて邪悪を流し去る。舟を造って罪なき者を救え——を、犠牲も躊躇することなく執拗に実行するノア。映画はノアとその家族の絆を現代人の実存的な視点で描いた物語にしている。ダーレン・アロフスキー監督は、伝説の記述文字では決して得られないスケールの壮大さと人間の心の深層を揺さぶる実在感を

描ききっている。監督は 30 年越しの夢が実現したと語っている。本映画が「ノアの箱舟」伝説の説明的な映画でないことを承知しておきたいし、「ノアの箱舟」伝説には、他の伝説のように異なるバージョンがあることも知っておきたい。



しかし、本映画の魅力はまず、巨大な建造物たる箱舟、乗船するために押し寄せる多数の動物たち、救助を求める群衆、天地を裂いて怒涛する大洪水をまさにリアルにした VFX 技術である。残念なことに地上から天高く吹き上げる水柱の映像はリアル感が欠ける。が、空気・

火・水・土の元素から創生した自然の驚異を背景に、神(the Creator)に創生された人間の使命—悪を浄化する正義と悪もありとする対極が葛藤する人間ドラマと家族愛の絆が現実化してくる。だからこそ「ノアの箱舟」伝説はリアル感をもって現代人の心情に迫ってくるのである。

物語のテーマは簡素で平明に「勇気」「犠牲」「愛」「希望」「贖罪」をどう捉えるかである。

本映画のノアの箱舟の製作にあたり、箱舟の足場をメトロポリタン美術館屋上の構造物「ビッグ・バンブー」で著名な現代美術作家マイクとダグ・スターン兄弟が手掛けたことを注目しておきたい。

【映画情報】

2014年6月13日より 全国公開

公式 HP: <http://www.noah-movie.jp/>

監督・製作: ダーレン・アロフスキー (『ブラック・スワン』『レスラー』)

脚本: ダーレン・アロフスキー、アリ・ハンデル

出演: ラッセル・クロウ、ジェニファー・コネリー、レイ・ウィンストン、
エマ・ワトソン、アンソニー・ホプキンス、ローガン・ラーマン、
ダグラス・ブース

© 2013 Paramount Pictures. All Rights Reserved.

配給: パラマウント ピクチャーズ ジャパン

©m.tsukada. All Rights Reserved